

千葉商科大学の国際化ビジョン
「世界とつながる」

2021年1月24日

経営改革本部

本部長 内田茂男

2019年末に突如として新型コロナウイルスが出現し、またたく間に地球全体に拡散した。ヒト、モノの交流は遮断され、世界経済は1930年代の大恐慌（the Great Depression）以来の苦境に立たされた。このことは、われわれの生命、生活がいかに世界につながり、世界に支えられているかを如実に示している。また温暖化をはじめ各国、各国民がこれまで以上に協調して立ち向かわなければ解決できない地球的課題が眼前に現れている。どの国、どの組織、どの人にとっても、世界とつながり世界と共生する「国際化」は避けて通れない。

本学の創設者である遠藤隆吉は、明治から大正にかけて広く東洋、西洋の学問、文化を研究し、「東西文化の融合」を説いた。「道徳は東洋に長所がある」として人文東洋主義を唱え、西洋偏重の当時の風潮を正そうとしたのである。異なる文化と価値観を理解し、高い倫理感をもって平和な世界の発展に貢献する。さまざまな側面で「分断」がいわれ、一国主義、利己主義がはびこるいまの世界で、本学が目指す国際化戦略はこの遠藤精神をバックボーンとする。

千葉商科大学は、2014年に掲げた創立100年（2028年）に向けた長期ビジョン、「CUC Vision 100」で「アジアの発展を中核で支える人材を送り出す大学となる」とうたっている。日本が位置するアジア地域が「世界の成長センター」といわれて久しいが、今後もこの傾向は続く。アジアの成長・発展を支え、国際社会で活躍できる高い倫理観を備えたグローバル人材を育成する。このビジョンの実現に向けて第1期中期経営計画（2014－2018）では海外提携校の拡大（40校）、海外研修・海外留学プログラムの拡充、CUCサマープログラムの強化など国際化の基盤整備に取り組み目標をほぼ達成した。

第2期中期経営計画（2019－2023）では、本学の国際化戦略を「全学的な取り組み」として位置づけ、その第1ステップとしてダイバーシティ（多様性）を重視した全学的な教育体制、教育環境の整備・強化および外国人留学生の受け入れ拡充等を重点的かつ段階的に進める。

国際化ビジョン達成へのガイドラインは次の通りとする。

1. 全学的な教育体制、教育環境の整備・強化

(1)教育内容

- ①異文化理解
- ②日本の歴史・文化の理解
- ③情報リテラシー
- ④英語、中国語によるコミュニケーション力の向上

(2)教育体制

- ①国際教養学部、基盤教育機構、学部横断授業の活用の検討
- ②国際センターを中心とした海外留学等の国際交流の促進
- ③附属高校教育との連携強化

(3)国際交流ネットワークの強化

- ①海外の大学・研究機関との協同研究プロジェクト拡充
- ②教員の研究分野における国際交流の強化

2. 外国人留学生の受け入れ拡充等

(1)外国人留学生の受け入れの拡充

- ①当面、提携校を軸とした日本語能力のあるアジア人留学生の確保
- ②交換留学生の増加

(2)外国人留学生の日本国内就職の促進

- ①卒業留学生の就職率向上
- ②就職市場の開拓促進
- ③ビジネス日本語講座の設置

(3)外国人留学生の受け入れ拡充等に向けたグローバルな情報発信の推進

- ①現行WEB 英文サイトの活用・充実
- ②各種ドキュメントの段階的英語化

(4)外国人留学生支援体制の強化

- ①留学生に対する経済的支援（奨学金、居住支援等）
- ②支援充実に向けた教職員研修の実施

以上